



# 令和6年度 日向市立富高小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

## 学校経営ビジョン

「心のふるさと 富高小学校」  
『～“ゆめ”を支え、“やしさ”を育む～』

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目	方策手立て	評価内容 (児・児童 保・保護者 職・職員)	自己評価			◆ 学校の自己評価コメント・改善点等 □ 学校運営協議会のコメント
			昨年度	R 6	総合	
確かに学力の向上をめざして	教師力・授業力の向上	1 OJTの推進	児：学校は、楽しい。	3.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 前回学級を通じて児童や保護者が感じており、満足感・実感を与えられるような課題の発見ができる。頑張り努力し、ICT活用を図ながら、学力向上を目指している。今後も指導向上授業等を努め、継続して取り組んでいく必要がある。</li> <li>◆ 本年度実施した全国力・学習状況調査(6年)では、国際社会は全国・県を上回り、算数は全国・県とは同等であった。課題分析を行い、年度末まで学習年次の内容理解確認を行い、理解を深めさせ、次年度へつなげていきたい。頑張り年度から講評を行っており、頑張り努力重視された課題が意識されていた。</li> <li>◆ 読書活動評議会は年度と比べて大幅な出席率となりが、読書活動の向上につながる手立て工夫をいろいろと取り、読書活動は大きく伸びて、年間1万冊超えている。家庭では読書活動よりメディア活動の利用が多めと考える。</li> <li>□ 総合評議会の発表は大きく変化はないが、頑張りの指導と児童の努力もあり、学力向上をめざした頑張りが確実に実現している。</li> <li>□ タブレットを活用したテストや回答、集会等など時代の進歩を感じる。ICT活用によって、児童の自主学習が促進されている現象もでているようなので、今後もさらに進化していくと思われる。</li> <li>□ 読書の回数増えているが、保護者頑張る姿はまだ描いていないのではと想われる。個差があり、読んでいる児童は頑張らぬ姿が見られていると思う。</li> <li>□ 難読本をよく読むものどうか。読書が書く力に寄っているのどうか。保護者の卒業作品は頑張っているが、少しでも書籍などに触れてもらうよ。</li> </ul>
		2 相互授業参観の実施	保：子どもは楽しく学校に通っている	3.2	3.5	
		3 校内研修・個人研修の充実	職：児童が楽しいと感じるかかわりができた。	2.9	3.1	
	「わかる・できる」授業の実践	1 ひなたの学びの推進	児：授業は、分かりやすい。	3.5	3.4	
		2 ICTの活用	保：先生は、分かりやすい授業をしている。	3.3	3.6	
		3 「わかる・できる！」授業の実践ができた。	職：「わかる・できる！」授業の実践ができた。	3.0	2.9	
	読書活動の推進	1 読書の時間の確保	児：読書をよくしている。	2.9	2.8	
		2 感性や想像力の醸成	保：子どもは読書をよくしている。	2.4	2.4	
		3 学校図書館、巡回文庫の利用	職：読書の時間を設定し、読書活動の充実を図ることができた。	3.0	3.1	
児童が楽しいと感じる学校	特別支援教育の充実	1 インクルーシブ教育の推進理解	児：学級は誰にとっても過ごしやすい場所になっている。		3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コロナが5類になり、感染症への不安や緊張、多くの児童は元気よく登校し、元気な日々を過ごしていることが分かる。また、保護者安心して学校通学していると考えている。中でも、登校中の児童や保護者に対する面接では、直面問題を行ない、早期発見対応を行うよう、生徒課題を中心として取り組んでいる。さらに、物理的障害の児童からのアプローチも模索させてきた年となった。今後も継続的に行い、児童安心して学校生活を送ることができるように支援していくことが必要である。</li> <li>◆ あいさつ会や定期開催の親子会で継続して取り組んでいる。しかし、地域の人や安全監視等の元気あいさつが現れなかっただけもある。</li> <li>◆ 映像や音楽鑑賞ができる場面を見ると、まだ頑張りが早いが、肯定的な意見を述べることで、実感の蓄積につながる必要がある。</li> <li>◆ 今年度からスクールワイドPBSの実施（新規開設）あいさつ廊を行なう実施し、児童の行動に対する声かけが意識している。</li> <li>□ 先生が肯定的表現をかけていることが嬉しい。手を振るや割り添いつければ、安心して学校生活を送ることができると感じ、頑張らし始めた。</li> <li>□ 今後も楽しい学校づくりの取組を継続していただきたい。</li> <li>□ 地域の姿をより見かれながら、技術の発展につけてみると、安心して登校していただけた。先生も頑張っているのだろうと感じ、頑張らし始めた。</li> <li>□ 開会式での開会式の準備より、出発前のグランドゴルフ大会を開催しながら、天気悪く、公共交通機関やタクシーピンガムなどを駆使してたくさんの方々に参加してもらえた。</li> </ul>
		2 エバーソルテザイン導入授業づくり	保：先生は子ども達のことをよく分かってくれている。		3.1	
		3 児童理解の推進	職：児童理解に立った学習指導・生徒指導ができた。		3.1	
	いじめ・不登校への積極的対応	1 教育相談の充実	児：友達が嫌がることを見たり、いじめたり、いじめられたりするところを見たことがある。	2.9	3.3	
		2 チームでの対応	学校を休まず、元気よく登校している。		3.1	
		3 関係機関との連携	保：子どもの友人関係は良好である。 子どもは、いつも元気よく登校している。	3.2	3.1	
	あいさつの励行、無言清掃の徹底	1 いじめ・不登校ゼロの未然防止、早期発見・解決に努めることができた。	職：いじめ・不登校ゼロの未然防止、早期発見・解決に努めることができた。	3.1	3.2	
		2 主体的な取組	児：気持ちのよいあいさつや返事ができている。 無言でそうじができる	3.4	3.5	
		3 自信・思いやり	保：子どもは、気持ちのよい返事やあいさつをしている。	2.9	3.0	
		4 無言清掃徹底のための取組ができた。	職：あいさつ向上のための取組ができた。 無言清掃徹底のための取組ができた。	3.0	3.1	
たくましい身体の育成	体力テストの課題の克服	1 運動量の確保	児：よく運動をしている。	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 体力テストを実施し、A判定（男子9%、女子5%）、D判定（男子33%、女子は34%）であった。コロナ禍明け、児童の体力向上を目指して学校全体で取り組んでいく必要がある。</li> <li>◆ 季節問診の結果もあったが、開業前と変わらなかった。</li> <li>◆ 生活リズムの乱れが児童の学習習慣に影響を与えることあり、家庭と連携しながら生活リズムの確立を目指していく必要ある。健康面・保健面について、学年からの指導を行なってきた。</li> <li>◆ 標準化検査を実施することができた。前回は100%を目指して、満点を獲得している。現在124%の児童が満点を獲得している。今後も継続して家庭の指導を行い、100%を目指すべき。</li> <li>□ たましい体づくりのためには、基本的な生活習慣の定着が重要なので、家庭との連携を継続してほしい。</li> <li>□ 運動会を見、児童達が意欲的に活動している様子が印象的。表現（タヌク）や相撲みんなまとまって活動できていた。体が大きくなるにつれて走る、跳ぶなどスポーツが楽しめるところが印象的。</li> <li>□ 食生活アレルギーはどうに対応しているのか。また、年々アレルギー疾患の増加が見えていた。</li> <li>→ 飲食や当番登録において、エビや貝類を含むアレルギー疾患が増えていて、学校統一で対応を推進し対応していくという事例がある。</li> </ul>
		2 体力の二極化傾向への対応	保：子どもは、進んで運動をしている。	2.9	3.0	
		3 体格テストの課題克服に向けた取組ができた。	職：体格テストの課題克服に向けた取組ができた。	2.6	2.7	
	望ましい食生活と生活リズムの確立	1 食育の推進	児：早ね、早起きができる。	3.1	3.1	
		2 安心・安全な給食指導	保：子どもは、早寝、早起きの習慣が身に付いている。	2.9	3.0	
		3 メディアコントロール	職：基本的な生活習慣の定着を図るために取組ができた。	3.1	3.2	
	むし歯治療率100%	1 食事のあとは歯みがきをして、歯を大切にしている。	児：食事のあとは歯みがきをして、歯を大切にしている。	3.6	3.6	
		2 受診させている。	保：治療カードが届いたら、すぐに受診させている。	3.2	3.2	
		3 治療の啓発、歯磨き指導の充実を図ることができた。	職：治療の啓発、歯磨き指導の充実を図ることができた。	3.0	3.2	
地域とともにある学校づくり	地域人材・素材の積極的な活用	1 地域のひと・もの・こと理解推進	保：学校は、地域のひと・もの・ことを活用した取組をしている。	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地域の人材や素材を各学年で活用でき、生徒や社会見習等で積極的に取り入れることができた。</li> <li>◆ 今年度は学術講演会を開催して、150周年企画各方面の協力が得られ、盛大に開催された。</li> <li>◆ 紫色の腰帯については、すべて安心メールを送り、承認が得ることができた。学校よりやホームページなどを活用し、学校の情報を保護者に積極的に発信することができた。</li> <li>◆ 児童が自信もって自分の夢や目標を語ることができるように、キャリア教育センターの層の活動を図りながら、キャリア教育の充実をめざす。</li> <li>□ 学校のホームページが年を通しており、学校の様子を詳しく知ることができた。地域との連携や地元の文化等も充実していることもうかがえた。</li> <li>□ コロナ前は、昔の遊びなど学校でやっていたこともあるが、今はキャリア教育や学習指導の一環として行われている。地元でもできるだけ活動をしきたいと思う。</li> <li>□ 学校150周年企画では、地域との連携大にこだわっており、午睡清掃などのタイアップにより無理が盛んに開催され、児童が喜んでいた。</li> <li>□ 安全・安心メールの活動が盛んにより、家庭や地域につながる情報を発信していただけた。</li> </ul>
		2 地域の人材・素材を活用した授業や取組を積極的に行なった。	職：地域の人材・素材を活用した授業や取組を積極的に行なった。	2.3	3.1	
	コミュニティ・スクールの推進	1 情報発信と熟議（しゃべり場）	保：学校は、教育活動の様子や小中一貫教育の取組を家庭や地域に発信している。	2.8	2.9	
		2 取組のプラスアップ	職：通信やホームページ等を活用して、学校の情報を保護者や地域に発信することができた。	2.9	3.4	
	キャリア教育の推進	1 キャリア教育支援センターとの連携	保：子どもは自分のよさやこれから目標について考えている。	3.1	2.8	
		2 よのなか先生の活用	職：地域の方や「よのなか先生」等の活用を図り、キャリア教育の充実を図ることができた。	3.3	3.1	

※自己評価の総合（ ）はR 5の数値